

漁況海況予報事業

金城清昭・嘉数清・兼浜安信

川崎一男・喜屋武俊彦・山本隆司

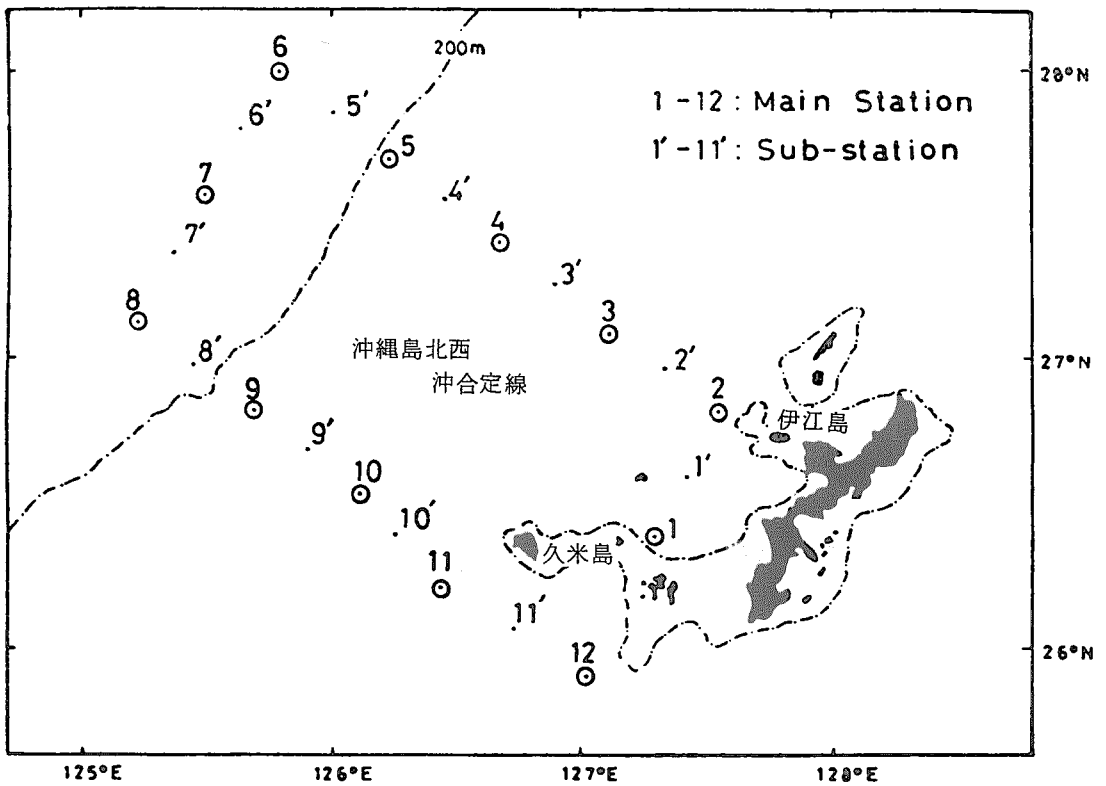
海老沢明彦

1 目的

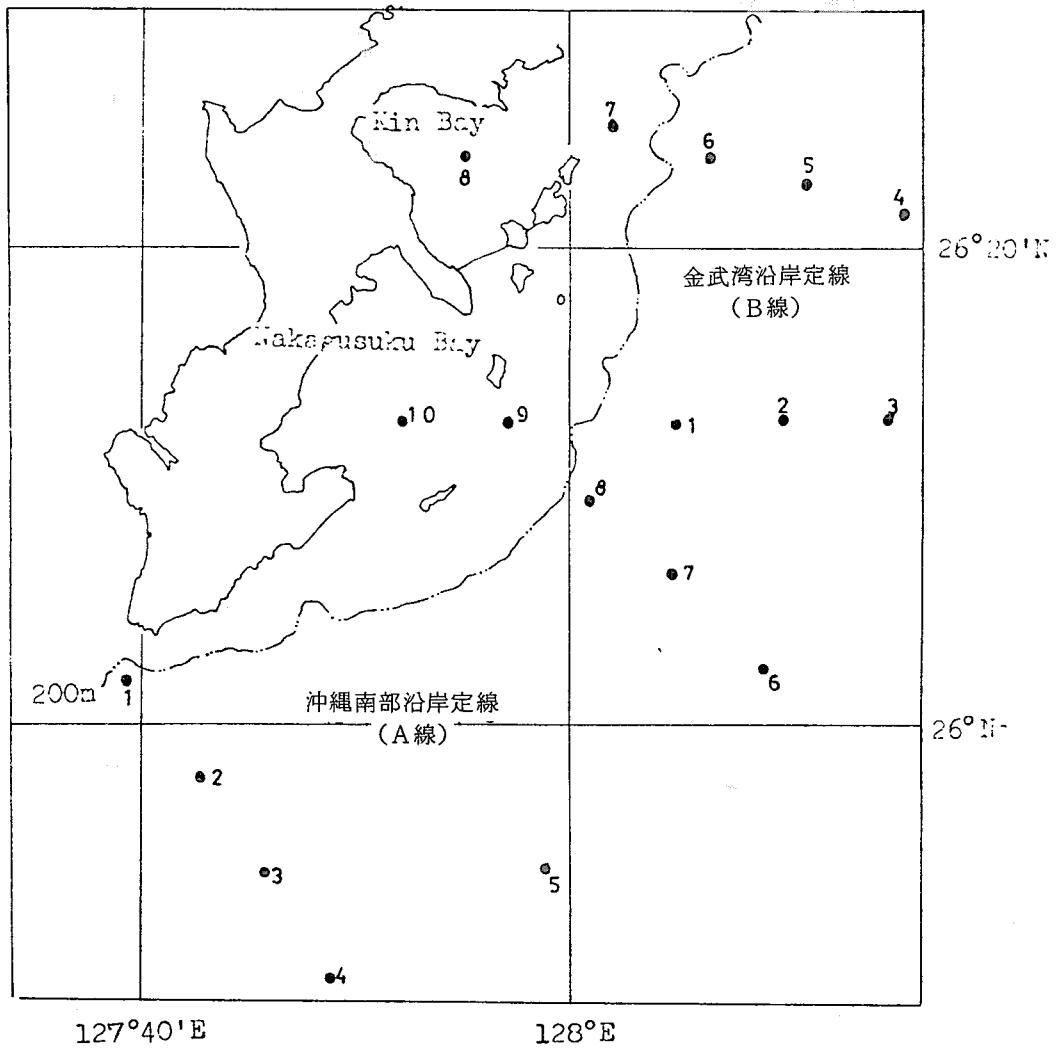
沖縄島周辺海域の海況観測を行うことにより、海況の現況及び変動傾向を把握し、海況予察を行う。

2 方法

図1及び2に示した沖合及び沿岸定線で、表1及び2のとおり実施した。



図一1 沖合定線図



図一 2 沿岸定線図

表一 1 沖合定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	主定点数	調査員	補助点数
1	昭和55年5月29~31日	図南丸	12	喜屋武、金城	11
2	8月19~21日	〃	12	嘉数、山本	11
3	12月2~4日	〃	12	金城、海老沢	11
4	昭和56年2月10~12日	〃	12	喜屋武、海老沢	11

表一 2 沿岸定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	定点数	調査員	備考
1	昭和55年5月22~23日	くろしお	18	山本、金城	A・B線
2	6月12日	〃	10	川崎、兼浜	A線
3	7月23~24日	〃	8	喜屋武	B線
4	8月20~21日	〃	10	金城	A線
5	9月24~25日	〃	18	金城	A・B線
6	10月29~30日	〃	10	金城	A線
7	11月21~22日	〃	8	金城	B線
8	12月16~17日	〃	10	金城	A線
9	昭和56年1月28日	〃	8	金城	B線
10	2月18~19日	〃	10	金城	A線
11	3月30日	〃	10	金城	A線

調査項目は、沖合定線では主定点 (St. 1~12) での 300 m 層までの各層観測、補助点 (St. 1' ~ 11') での BT 及び DBT による水温観測、主・補助点での GEK による表面流況観測及び一般気象海象観測、また沿岸定線では 200 m 層までの各層観測と GEK 観測及び一般気象海象観測を行った。

3 結果

結果の詳細については、昭和55年度漁況海況予報事業報告書として報告するため、ここでは省略するが、概要については下記のとおりである。

1) 表面流況

黒潮の流軸位置は、5月には久米島北西方で大陸棚から離れ、伊江島北西方で大陸棚に接近、8月には伊江島北西方で大陸棚に接して流路は北北東であった。12月には、同方で大陸棚から離れ、流路は北東に変化し、2月には大陸棚と平行に流去していた。沖縄島西岸の南下流は、5月に 1.0~1.9 ノット、8月に 1.0 ノット以下、12月に 1 ノット程度、2月には 1.7 ノットが観測された。

2) 沖縄島沿岸水温

表面水温は、春期平年並に経過していたが、夏期になって平年比 1~2℃ 高めとなり、10月以降3月まで平年並であった。中層 (150~200 m) 水温は、4~8月までは、平年並であったが9月以降12月まで平年比 2~4℃ 程高めとなり、2月には平年並となった。

3) 沖縄島沿岸塩分量

表面塩分は、春期平年並であったが、8月以降3月まで平年比高めに経過した。また、中層塩分は、12月までは平年並で1月以降平年比高めとなった。